

ふくい桜マラソン2025

【出場結果】

実施日 : 3月30日(日)

コース : (日本陸上競技連盟公認・ワールドアスレティクス/AIMS 認証コース)
福井駅前・大名町交差点⇒さくら通り⇒松本通り⇒新九頭竜橋⇒フェニックス通り⇒丸岡城⇒森田駅付近⇒九頭竜川堤防⇒高屋橋⇒明治橋⇒日光橋⇒狐川堤防⇒9.98 スタジアム⇒明里橋通り(足羽山)⇒足羽川堤防⇒片町入口交差点付近

出場者 : 小林 航央 坪井 響己

リザルト:

	小 林	坪 井
タイム	2:16'37" 自己ベスト	2:19'24" 自己ベスト
順位	優勝/9,056名(完走者)	4位/9,056名(完走者)

【レポート】

全都道府県の中で唯一フルマラソンの大会がなかった福井県で、「全都道府県で一番最後だけが一番新しい、新世代のフルマラソン」の大会コンセプトのもとに開催された、ふくい桜マラソンに、先月の大阪マラソンで自己ベストを更新する走りを見せた小林と、第1回となった昨年大会から二年連続出場となる坪井の2名が出場しました。

今年は2名とも招待選手として年度納めとなるレースに挑み、マラソンの部では「サブ10チャレンジ部門」が設定され、35kmまでペースメーカーが2時間10分切りを意識したペースで刻む設定のところ、当日は朝から冷たい雨と風が吹きつける厳しいコンディションとなったため、2名はペースメーカーにはつかず自己記録更新と3位入賞を目指すペースでレースに臨みました。



20km地点 先頭とは約1分の差で単独2位の小林



20 km地点 3 位争いを繰り広げる坪井

スタート後にペースメーカーについた選手は 1 名だけで、20 km通過時では先頭と 1 分ほどの差で小林が単独の 2 位をキープ、更に 1 分ほどの差で坪井が 3 位争いをしており、共に表情には余裕が感じられ、自己記録の更新、入賞ラインである 3 位以内を目指してペースを刻み、レースは後半へ。



30 km地点 冷たい雨風に打たれ表情も厳しくなる小林



30 キロ地点 序盤から続く3位争いを展開する坪井

30 km以降も冷たい雨風は止まず、体力を消耗する選手達には厳しい気象コンディションが続きましたが、小林と坪井は表情こそ厳しくなったものの、20 km通過時と先頭との差や順位ともにほぼ変わらず粘りの走り続け、ペースメーカーが外れた35 km以降も先頭を走っていた選手の動きが鈍りだすと、単独2位を走る小林が先頭の選手を視野に、その差を一気に詰めて、ラスト1 km地点で先頭に立ち、渾身のラストスパートが冴えて後続との差を40秒以上も広げ、栄光の優勝テープを切る2時間16分37秒の自己新記録でゴールしました。

また、坪井も3位を死守する走り続けましたが、ゴール直前で抜かれて4位でのゴールとなり、それでも2時間19分24秒と自己記録を更新する走り堂々の走りでした。



全国中学陸上競技大会 800m優勝以来のゴールテープを切る小林！



3位以内の入賞は逃したものの、自己記録を更新する走りでゴールした坪井



栄誉ある金メダル授与！！おめでとう！！

【総 評】

年度納めとなるレースに出場した 2 名の選手が共に自己新記録でゴールしてくれたことは、次年度の新体制を迎える上でも非常に良い形で締め括る結果となりました。

優勝した小林については、11 月に初マラソン（大田原マラソン 2 位 2 時間 20 分 8 秒）に挑戦した後、2 月の大阪マラソンでは 2 時間 17 分 37 秒と自己記録を更新する走りを披露し、そこから僅か 1 カ月という短い準備期間で臨んだ今回のマラソンでも優勝という栄誉に加えて、自己記録を更に短縮する 2 時間 16 分 37 秒という素晴らしい結果を残してくれました。

今回の記録は来年度の東京マラソン 2026 のエリート出場枠での出場タイムをクリアするものであり、来期は本職のトラック 1500m での日本選手権出場に加え、フルマラソンでの自己記録更新という、距離の大きく異なる二種目での結果を視野に競技に向き合って欲しいと思います。

最後になりますが、2024 年度も日頃から応援頂いている皆様には、沢山の温かいご声援を頂きまして、誠に有難う御座いました。

2025 年度も引き続き、真摯に競技に取り組んで参りますので、引き続きまして、皆さまの温かいご声援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

以 上